

# ワンちゃんをお迎えした時に注意したい病気 ～飼い始めの時期に注意したい病気編～

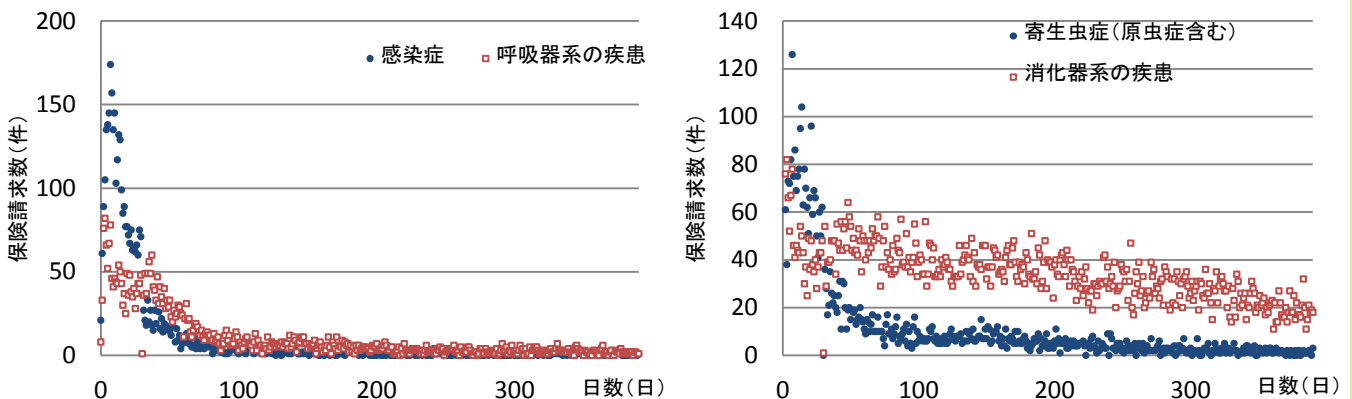


## ■お迎え後のワンちゃんの通院傾向①

ペットショップからご家庭に迎えられた0歳のワンちゃんが、お迎え後の何日目どのような病気で通院しているかを調べたところ、病気によって通院時期にいくつかの傾向が見られました。まず1つ目に、飼い始めの時期に注意が必要な病気についてご紹介します。

下の図のように、感染症、呼吸器系の疾患および寄生虫症については、**お迎え直後に通院のピークがある**ことがわかりました。また、消化器系の疾患についてもお迎え直後が最も通院が多いものの、その後の減少は緩やかであり、全体的に通院数が多いことがわかりました（図1）。

図1.保険始期日からの経過日数と請求件数



2011年度（2011/4/1～2012/3/31）にアニコム損保の「すまいるべいびい」契約後に「すまいるふぁみりい」契約を継続した犬22,301頭の保険金請求における診療開始日について「すまいるふぁいびい」の保険始期日からの日数を、傷病名（大分類）別に調査した。

## ■感染症で気をつけたいポイント

感染症の中でも、ケンネルコフでの通院は多くみられます。幼少期のワンちゃんでは環境の変化によるストレスが引き金となって呼吸器疾患を発症してしまうことが考えられます。

ケンネルコフの主な症状は、咳、鼻水ですが、食欲減退、発熱、元気喪失などの症状がでることもあり、重症化すると肺炎に進行することもあります。お迎え直後のワンちゃんはとてもデリケートです。いっしょに遊びたいのをぐっと我慢して、慣れるまでは静かにしてあげると良いでしょう。また、様子をよく観察して、様子がおかしいと思ったら早めに病院に連れて行ってあげましょう。

- ・ 飼い始めの時期は「感染症・呼吸器系の疾患・寄生虫症」に注意！
- ・ 消化器疾患は飼い始めの時期をピークに、その後も注意が必要。

# ワンちゃんをお迎えした時に注意したい病気 ～お家に慣れてからも注意したい病気編～

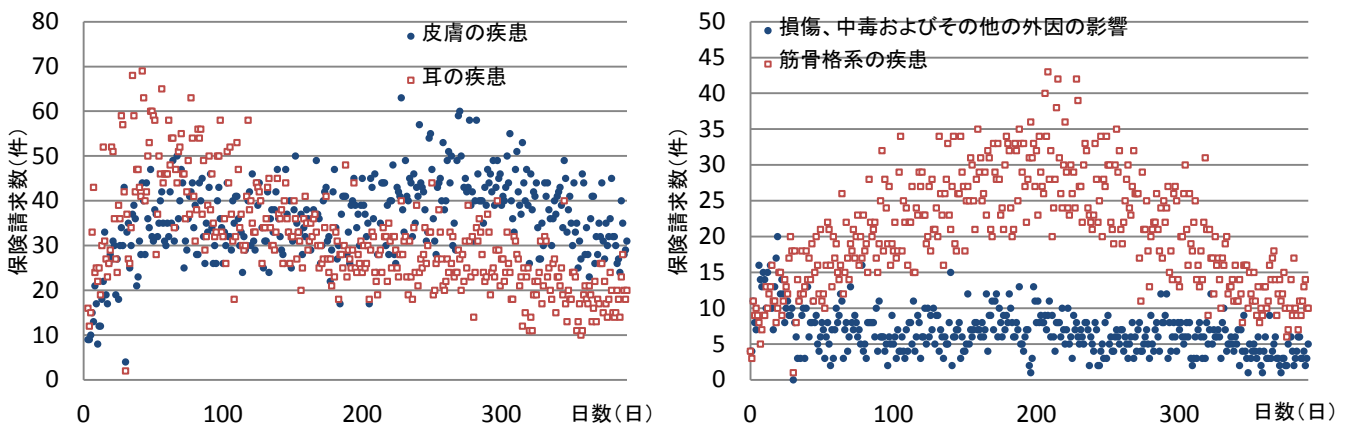


## ■お迎え後のワンちゃんの通院傾向②

飼い始めの時期に注意したい病気編に続いて、お家に慣れた時期からも継続して注意が必要な病気についてご紹介します。

下の図をみると、皮膚の疾患と耳の疾患、および損傷・中毒などの事故については、100日目以前に1回ピークがくるものの、その後も一定程度の通院がみられます。また、筋骨格系の疾患では、お迎え後100日目から200日目に通院が増加していることがわかります（図2）。

図2.保険始期日からの経過日数と請求件数



2011年度（2011/4/1～2012/3/31）にアニコム損保の「すまいるべいびい」契約後に「すまいるふぁみりい」契約を継続した犬22,301頭の保険金請求における診療開始日について「すまいるふべいびい」の保険始期日からの日数を、傷病名（大分類）別に調査した。

## ■筋骨格系の疾患で気をつけたいポイント

筋骨格系の疾患については、骨格や筋力がある程度しっかりして運動量や行動範囲が増えるために、骨折や膝蓋骨脱臼での通院が増加することが考えられます。

特に、骨折の罹患率が1番高い年齢は、0歳です。この時期は高いところから飛び降りたりしないように、高いところには登れないようにするなどの環境の整備をこころがけてあげましょう。

また、運動量が増えるこの時期には、急な方向転換で滑って膝関節を痛めてしまわないように、思いっきり遊ぶ場所には、滑りにくい床材を選んであげると良いでしょう。

- ・3ヶ月目をすぎたら「筋骨格系の疾患」の予防に環境の整備を！
- ・「皮膚の疾患」「耳の疾患」にも引き続き注意が必要。